

V. 基本構想・現存植生を踏まえた
樹林地・湿地の保全管理の事例

1. 基本構想・現存植生を踏まえた樹林地・湿地の保全管理の事例

樹林地及び湿地の保全・活用計画を作成するにあたり、基本構想でまとめた「保全・活用方針による区域区分（以下、「区域区分」とする）」ごとに、「樹林地・湿地の保全管理の項目」を土地条件にあわせて配分した。以下に、基本構想でまとめた「区域区分」について示した。また、次頁の右表に「各「区域区分」ごとの「樹林地・湿地の保全管理の項目」の配分」を示した。

＜基本構想において示された区域区分＞

A：手入れをしながら面的に活用可能な区域

A-1：樹林地エリア

A-2：樹林（サクラ林）エリア

A-3：谷戸エリア

B：手入れをしながら線的な利活用にとどめる区域

C：最小限の手入れにとどめ遷移を誘導する区域

「区域区分」ごとの「樹林地・湿地の保全管理の項目」を樹林地と湿地にわけて示したものが、次頁以降の「区域区分ごとの樹林地の保全管理計画図」、「区域区分ごとの湿地の保全管理計画図」である。

①区域区分ごとの樹林地の保全管理の方針

基本構想でまとめた「A（A-1・A-2）」、「B」、「C」における多様な自然環境を保全するために、必要となる樹林地の保全管理について、各「区域区分」を踏まえた樹林地の保全管理の方針を以下に示した。

●A-1

基本構想において「A-1（樹林地エリア）」は、手入れをしながら面的に活用可能な区域（定期的に入手入れしながら生物の多様性を維持・向上させるとともに資源活用を図る）と設定した。

「湧水・集水域等の水源域の保全」には、必要に応じて集水域内の樹林の萌芽更新等を行いつつながら、適切な樹林管理を行っていく必要があると思われる。ただし、ある一定面積を皆伐する萌芽更新のような保全管理手法を行う場合、試験的に伐採を行い、モニタリング等を実施し、手法を確立していく必要がある。

また、「湧水・集水域の保全」を行うためには、地表の保水力を向上させる必要がある。このため、表土が裸地化してきている場所は、林床に日照量を確保し、多様な植生を生育させる必要がある。特に、急傾斜地では、表土の裸地化が地すべり等を引き起こし、水源域の喪失を招く恐れがある。そこで、急傾斜地にある樹林は、軽減剪定・択伐等の必要に応じた樹林管理を行い、林床の日照量の確保によって、草本類を育成し、表土・地形等を保全する必要があると思われる。急傾斜地の表土・地形等の樹林管理は、作業は困難であり、危険が伴う。実際の作業は、豊富な知識と経験を持つプロを中心に実施することが望ましい。

「注目種の保全」には、「A-1」では、注目種であるホタル・ホトケドジョウ・フクロウが生息しており、これら各個体の生活史に基づく適切な保全管理を行う必要がある。

「エコトーンの保全」には、水面-水辺-湿地-草地-林縁-樹林と連続する環境を分断することなく一体的に保全し、生物の多様性を維持・向上させる必要がある。

なお、「注目種の生息環境」、「湧水・集水域等の水源域」、「周辺住宅」の付近に急傾斜地がある場合には、表土の安定化を図るために、区域区分に関わりなく優先的に保全管理を行う必要がある。

このため、林内の園路周辺部では、生物多様性の向上を目的とする伐採・下草刈り等を行う場合、生物の生息に影響のないよう、必要に応じて部分的・モザイク的に伐採・下草刈りを行う等の配慮が必要である。

●A-2

基本構想において、「A-2（サクラ林）」は、手入れをしながら面的に活用可能な区域（定期的に入手入れしながら生物の多様性を維持・向上させるとともに資源活用を図る）と設定した。

「湧水・集水域等の水源域の保全」には、集水域内の適切な樹林管理を行っていく必要がある。しかし、「A-2」は、サクラ林へ遷移させていく必要があるため、保全管理は、一定面積を皆伐するのではなく、択伐によってサクラ林への誘導を行う。

また、「A-1」同様に、急傾斜地がある場合は、地表の保水力を向上させるため、林床に日照量を確保する等の適切な保全管理を行う必要がある。

「注目種の保全」については、「A-1」と同様に、注目種であるホタル・ホトケドジョウ・フクロウが生息しているため、各個体の生活史に基づく適切な保全管理を行う必要がある。

「エコトーンの保全」として、谷戸周辺の林縁部の保全管理を行い、生物の多様性を維持・向上させるための樹林の保全管理を行う。

なお、急傾斜地の樹林については、「A-1」と同様である。

●B

基本構想において、「B」は、手入れをしながら線的な利活用にとどめる区域（必要に応じて手入れをしながら生物の多様性を維持・向上させ、保全を重視して線的な利活用にとどめる）と設定した。

主に「エコトーンの保全」として、谷戸周辺の林縁部では、生物の多様性を維持・向上させるための樹林の保全管理を行う。これにより、線的な利活用が可能となり、かつ多様な自然環境を維持できる。

「湧水・集水域等の水源域の保全」としては、地表の保水力を向上させるため、急傾斜地の樹林に対し適切な保全管理を行う必要がある。

「注目種の保全」については、注目種であるホタル・ホトケドジョウ・フクロウが生息しているため、各個体の生活史に基づく適切な保全管理を行う必要がある。

なお、急傾斜地の樹林については、「A-1」と同様である。

●C

基本構想において、「C」は、最小限の手入れにとどめ遷移を誘導する区域と設定した。

しかし、「湧水・集水域等の水源域を保全」するためには、地表の保水力を向上させる必要がある。そのため、急傾斜地の樹林については、区域に関係なく優先的に保全管理の項目に応じた保全管理手法を行う。

「注目種の保全」については、フクロウとホタルが生息しているため、各個体の生活史に基づく適切な保全管理を行う必要がある。

②区域区分ごとの湿地の保全管理の方針

基本構想で示した「A-3（谷戸エリア）」は水田が耕作放棄された時期の違いにより植生の状況が異なる。このため、多様な植生の成立によって、さまざまな生物の生息環境が形成されている。植生の遷移の進行状態は、土地の立地条件により異なるが、湿地は全般的に乾燥化する傾向がある。一部では帰化植物のセイタカアワダチソウやツル植物のカナムグラ等の繁茂により、在来の湿生植物が被圧され、失われつつある。このまま放置すると、谷戸は乾燥化が進み、環境が単純化して、多くの生物が姿を消すと考えられる。

基本構想では、谷戸エリアを「手入れをしながら面的に活用可能な区域」として、「定期的に手入れしながら生物の多様性を維持・向上させるとともに、資源の活用を図る」とした。

このエリアには、大きく3つの谷戸と七里ヶ浜の景観ゾーンの湿地がある。これらの谷戸には、カヤネズミ・ホタル・ホトケドジョウ・カエル類といった注目種が生息しているため、自然環境の保全と共に、積極的に種を保全する必要がある。注目種の保全は、計画地の生物多様性及び自然環境の保全としても重要である。

対象とする3つの谷戸と七里ヶ浜の景観ゾーンの湿地の保全・活用の方針を以下に示した。

●竹ヶ谷の森ゾーンの谷戸1

「竹ヶ谷の森ゾーンの谷戸1」は、造成されて乾燥化してきているため、湿地を復元して乾燥化の軽減を図る。一方、既に盛土されて陸地化している場所は、湿地と樹林をつなぐエコトーンとなる草地として保全・活用する。

今後、市民団体等の活動状況・要望等に応じて、谷戸を水田として復元し、保全・活用を図ることも考えられる。谷戸を水田として復元する場合には、環境学習・総合的学習等の場として保全・活用していくことも視野に入れて実施する。ただし、復元する水田は、最大でも「竹が谷の森ゾーンの谷戸1」内で収まる程度の規模（参加人数に大きく影響を受ける）とする。また、復元する水田を活用した、環境学習・総合的学習等を行うにあたり、指導者を育成するためのプログラム・講習会の開催等を同時に検討する必要がある。

●竹ヶ谷の森ゾーンの谷戸2

「竹ヶ谷の森ゾーンの谷戸2」は、野鳥の餌場・カエル類の産卵場所・多様な種の生息環境としての機能が大きい。そのため、「竹ヶ谷の森ゾーンの谷戸2」は現在の状況を保全する。また、現在ある園路周辺には湧水があり、降雨時等は水が染み出し、地面がぬかるむところもある。このような場所については、木道等を整備し利用者の無秩序な立入りを防ぎ湿地を保護する。

●御所谷のゾーンの谷戸（基本構想における「鎌倉山の谷戸ゾーン」）

「御所谷のゾーンの谷戸」は、現在既存団体等が調査・観察などに利用している。今後も利用が見込まれるため、湿地の復元・保全等を行いながら、既存団体が今後も活動できるようにする。また、生活雑排水が流入しているため、湿地内に植物等による浄化を目的とした浄化池を設置するなど、可能な範囲で水質の向上または、雑排水の分硫化を図る。

なお、水質浄化の詳細については、「本編、P.35」に示した。

●七里ヶ浜の景観ゾーンの湿地

「七里ヶ浜の景観ゾーン」の湿地は、現在盛土された部分やゴミの散乱等がみられる。そのため、諸問題の対策を行いながら、湿地の復元・保全を行う。

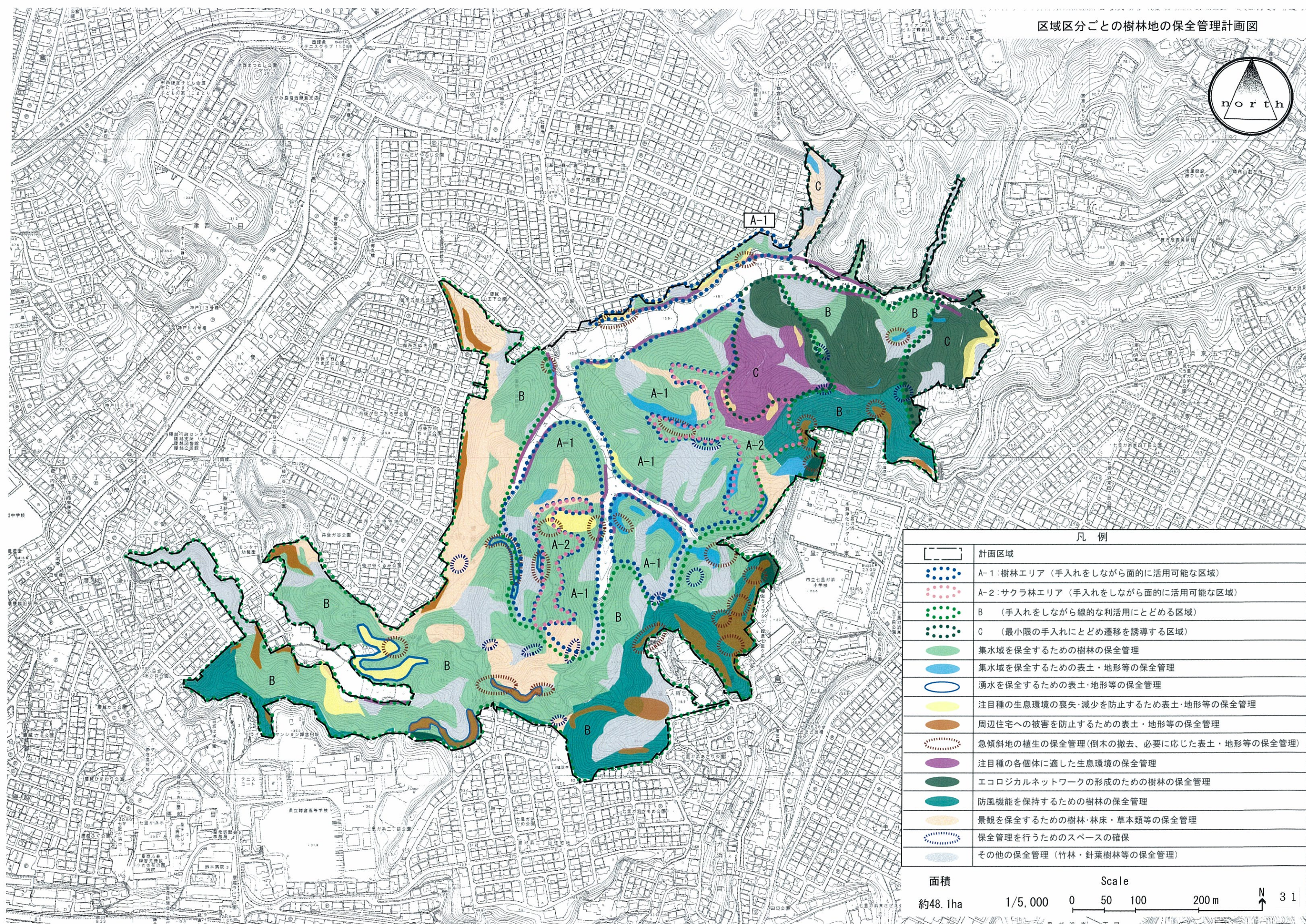
各「区域区分」ごとの「樹林地・湿地の保全管理の項目」の配分

区域区分		樹林地・湿地の保全管理の項目	
全区域区分の共通項目		エコトーンの保全管理	
A※	Aの共通保全管理の項目	保全管理を行うためのスペースの確保	
		集水域を保全するための樹林の保全管理	
		集水域を保全するための表土・地形等の保全管理	
		湧水を保全するための表土・地形等の保全管理	
		注目種(ホタル・ホトケドジョウ)の生息環境の喪失・減少を防止するための表土・地形等の保全管理	
		急傾斜地の植生の保全管理(倒木の撤去、必要に応じた表土・地形等の保全管理)	
	樹林地エリアの共通保全管理項目	景観を保全するための樹林・林床・草本類等の保全管理	
		A-1 樹林地エリア	注目種(ホタル・ホトケドジョウ・フクロウ)の各個体に適した生息環境の保全管理
		A-2 樹林(サクラ林)エリア	注目種(ホタル・ホトケドジョウ・フクロウ)の生息環境の喪失・減少を防止するための表土・地形等の保全管理 周辺住宅への被害を防止するための表土・地形等の保全管理 防風機能を保持するための樹林の保全管理
	A-3 谷戸エリア	注目種(ホタル・ホトケドジョウ・カヤネズミ・カエル類)の各個体に適した生息環境の保全管理	
B※	B※	集水域を保全するための樹林の保全管理	
		集水域を保全するための表土・地形等の保全管理	
		湧水を保全するための表土・地形等の保全管理	
		注目種(ホタル・ホトケドジョウ)の生息環境の喪失・減少を防止するための表土・地形等の保全管理	
		周辺住宅への被害を防止するための表土・地形等の保全管理	
		急傾斜地の植生の保全管理(倒木の撤去、必要に応じた表土・地形等の保全管理)	
		注目種(ホタル・ホトケドジョウ)の各個体に適した生息環境の保全管理	
		エコロジカルネットワークの形成のための樹林の保全管理	
		防風機能を保持するための樹林の保全管理	
		景観を保全するための樹林・林床・草本類等の保全管理	
C※	C※	保全管理を行うためのスペースの確保	
		集水域を保全するための樹林の保全管理	
		注目種(フクロウ・ホタル)の生息環境の喪失・減少を防止するための表土・地形等の保全管理	
		周辺住宅への被害を防止するための表土・地形等の保全管理	
		エコロジカルネットワークの形成のための樹林の保全管理	
		景観を保全するための樹林・林床・草本類等の保全管理	
保全管理を行うためのスペースの確保			

※A: 手入れをしながら面的に活用可能な区域

B: 手入れをしながら線的な利活用にとどめる区域

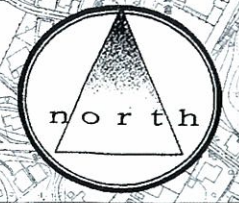
C: 最小限の手入れにとどめ遷移を誘導する区域



凡例

	計画区域
	A-1: 樹林エリア (手入れをしながら面的に活用可能な区域)
	A-2: サクラ林エリア (手入れをしながら面的に活用可能な区域)
	B (手入れをしながら線的な利活用にとどめる区域)
	C (最小限の手入れにとどめ遷移を誘導する区域)
	集水域を保全するための樹林の保安全管理
	集水域を保全するための表土・地形等の保安全管理
	湧水を保全するための表土・地形等の保安全管理
	注目種の生息環境の喪失・減少を防止するため表土・地形等の保安全管理
	周辺住宅への被害を防止するための表土・地形等の保安全管理
	急傾斜地の植生の保安全管理(倒木の撤去、必要に応じた表土・地形等の保安全管理)
	注目種の各個体に適した生息環境の保安全管理
	エコジカルネットワークの形成のための樹林の保安全管理
	防風機能を保持するための樹林の保安全管理
	景観を保全するための樹林・林床・草本類等の保安全管理
	保安全管理を行うためのスペースの確保
	その他の保安全管理(竹林・針葉樹林等の保安全管理)

面積 約48.1ha Scale 1/5,000 0 50 100 200m N 31



御所谷のゾーンの谷戸
谷戸・湿地の保全
(生活雑排水の流入・湿地の乾燥化等の対策)

御所谷のゾーンの谷戸
谷戸の保全・活用 (水田・湿地の復元と保全活動)

竹ヶ谷の森ゾーンの谷戸1
湿地・草地の復元

竹ヶ谷の森ゾーンの谷戸2
谷戸の保全 (現状の湿地を保全)

七里ヶ浜の景観ゾーンの湿地
谷戸・湿地の保全

凡例	
	計画区域
	A-3: 谷戸エリア (手入れをしながら面的に活用可能な区域)
	C (最小限の手入れにとどめ遷移を誘導する区域)
	湿地・草地の復元
	谷戸の保全・活用 (水田・湿地の復元と保全活動)
	保全湿地 (現状の湿地を保全)
	谷戸・湿地の保全 (諸問題の対策を行いながら保全)
	注目種をストックさせる池やたまり水
	植物等による水質の浄化 (浄化池等)
	ホタルの生息環境の保全
	ホトケドジョウの生息環境の保全
	カヤネズミの生息環境の保全
	野鳥の餌場・カエル類の産卵場所の保全
	乾地化の防止 (湿地の復元)
	適切な保全管理を行うためのスペースの確保

面積 約48.1ha Scale 1/5,000 0 50 100 200 m N 32

下表は、各「区域区分」における「樹林地・湿地の保全管理の項目」ごとに、「現存植生」別の「樹林地・湿地の保全管理手法メニュー」を示したものである。「樹林地・湿地の保全管理手法メニュー」は、本編に示した「樹林地の保全管理手法のメニュー」及び「湿地の保全管理手法のメニュー」を踏まえて、設定したものである。

各「区域区分」における「樹林地・湿地の保全管理の項目」ごとの、「現存植生」別の「樹林地・湿地の保全管理手法メニュー」

保全・活用方針の区域区分	樹林地・湿地の保全管理の項目	現存植生	樹林地・湿地の保全管理手法メニュー
林内の散策路沿い	尾根の散策路沿い	全ての植生	・多様性を図るため、必要に応じて林床を刈り最小限の歩行空間を確保する
	谷戸と尾根とをつなぐ散策路沿い	全ての植生	・多様性を図るため、必要に応じて林床を刈り、湧水に配慮して最小限の歩行空間を確保する
エコトーンの保全管理	谷戸の散策路沿い、谷戸の湿地沿いの保全管理	全ての植生	・生物や景観に配慮し、最小限の歩行空間を確保することで多様な林縁環境を保全する ・林縁環境の奥(山側)は必要に応じて、萌芽更新や間伐を行いながら多様性を高める
	樹林地と湿地を接続する多様で複合的な環境(エコトーン)の保全管理	全ての植生	・各々の保全目的に合わせて、各植生ごとに最適な方法で、連続した総合的な環境を維持する
A*	集水域を保全するための樹林地の保全管理	湿生落葉樹自然林	・自然遷移に委ねることを基本とし、良好な樹林地として維持する ・萌芽更新を行いながら、多様性を高める ・間伐等を、行いながら複層林化を図り、多様性を高める
		落葉広葉樹二次林	・萌芽更新を行いながら、多様性を高める
		混生二次林	・間伐等を、行いながら複層林化を図り、多様性を高める
	集水域を保全するため表土・地形等の保全管理	落葉広葉樹二次林	・傾斜木を間伐する等、複層林化を図り、多様性を高める
		混生二次林	
		林縁生低木-ツル植物群落	
	湧水を保全するための表土・地形等の保全管理	落葉広葉樹二次林	・傾斜木を間伐する等、複層林化を図り、多様性を高める
		混生二次林	・木を間伐する等、複層林化を図り、多様性を高める
	注目種(ホタル・ホトケドジョウ)の生息環境の喪失・減少を防止するための表土・地形等の保全管理	落葉広葉樹二次林	・傾斜木を間伐する等、複層林化を図り、多様性を高める
		混生二次林	
	急傾斜地の植生の保全管理(倒木の撤去、必要に応じた表土・地形等の保全管理)	林縁生低木-ツル植物群落	・傾斜木を間伐する等、複層林化を図り、多様性を高める
		林縁生低木-ツル植物群落	・補植し自然の回復力を利用しながら、樹林地へ誘導する ・傾斜木を間伐する等、複層林化を図り、多様性を高める
	注目種(ホタル・ホトケドジョウ・フクロウ)の各個体に適した生息環境の保全管理	落葉広葉樹二次林	・自然遷移に委ねることを基本とし、良好な樹林地として維持する(フクロウ) ・萌芽更新を行いながら、多様性を高める(ホタル) ・間伐等を、行いながら複層林化を図り、多様性を高める(ホトケドジョウ) ・ホタルの生活史や行動を理解し、その生息環境を維持する ・ホトケドジョウの生活史や行動を理解し、その生息環境を維持する ・フクロウの生活史や行動を理解し、その生息環境を維持する
		混生二次林	
		林縁生低木-ツル植物群落	
	景観を保全するための樹林地・林床・草本類等の保全管理	林縁生低木-ツル植物群落	・景観に配慮し、補植し自然の回復力を利用しながら、樹林地へ誘導する
保全管理を行うためのスペースの確保	林縁生低木-ツル植物群落	・林床の広場的な活用を図る	
その他の保全管理	植林地(針葉樹)	・用材林樹林地管理を行いながら、植林を維持する	
	竹林	・広葉樹との混交林化を図り、多様性を高める、自然林への遷移を誘導する ・生産林・用材林などとして管理を行いながら、拡大を防止し維持する	

※A: 手入れをしながら面的に活用可能な区域

保全・活用方針の 区域区分		樹林地・湿地の保全管理の項目	現存植生	樹林地・湿地の保全管理手法メニュー
A*	A-2	集水域を保全するための樹林の保全管理	落葉広葉樹二次林	・樹林を複層林化し、多様性を高める
		集水域を保全するための表土・地形等の保全管理	落葉広葉樹二次林	・傾斜木を間伐する等、複層林化を図り、多様性を高める
		湧水を保全するための表土・地形等の保全管理	落葉広葉樹二次林	
			落葉広葉樹二次林	
		注目種(ホタル・ホトケドジョウ・フクロウ)の生息環境の喪失・減少を防止するための表土・地形等の保全管理	林縁生低木-ツル植物群落	・傾斜木を間伐する等、複層林化を図り、多様性を高める ・ホタルの生活史や行動を理解し、その生息環境を維持する ・ホトケドジョウの生活史や行動を理解し、その生息環境を維持する ・フクロウの生活史や行動を理解し、その生息環境を維持する
		周辺住宅への被害を防止するための表土・地形等の保全管理	落葉広葉樹二次林	・傾斜木を間伐する等、複層林化を図り、多様性を高める
		急傾斜地の植生の保全管理 (倒木の撤去、必要に応じた表土・地形等の保全管理)	落葉広葉樹二次林	
		注目種(ホタル・ホトケドジョウ・フクロウ)の各個体に適した生息環境の保全管理	落葉広葉樹二次林	・自然遷移に委ねることを基本とし、良好な樹林として維持する(フクロウ) ・萌芽更新を行いながら、多様性を高める(ホタル) ・間伐等を、行いながら複層林化を図り、多様性を高める(ホトケドジョウ) ・ホタルの生活史や行動を理解し、その生息環境を維持する ・ホトケドジョウの生活史や行動を理解し、その生息環境を維持する ・フクロウの生活史や行動を理解し、その生息環境を維持する
		防風林機能を保持するための樹林の保全管理	落葉広葉樹二次林 混生二次林	・防風機能を保持するため、自然遷移に委ね、良好な樹林を維持する
	景観を保全するための樹林・林床・草本類等の保全管理	林縁生低木-ツル植物群落	・景観に配慮し、補植し自然の回復力を利用しながら、樹林へ誘導する	
	保全管理を行うためのスペースの確保	林縁生低木-ツル植物群落	・林床の広場的な活用を図る	
	A-3	注目種(ホタル・ホトケドジョウ・カヤネズミ・カエル類)の各個体に適した生息環境の保全管理	林縁生低木-ツル植物群落	・開放水面(水たまり)や多様な水分条件の湿地環境を保全・復元し多様性を高める ・水田耕作を行い、多様性を高める ・ホタルの生活史や行動を理解し、その生息環境を維持する ・ホトケドジョウの生活史や行動を理解し、その生息環境を維持する ・カヤネズミの生活史や行動を理解し、その生息環境を維持する ・カエル類の生活史や行動を理解し、その生息環境を維持する
			乾生草地	
			湿生草地	
保全管理を行うためのスペースの確保		林縁生低木-ツル植物群落	・林床の広場的な活用を図る ・草地の広場的な活用を図る(保全活用サービスヤード活用含む)	
		乾生草地		
		湿生草地		
その他の保全管理	緑化地(ウルシ林)	・生産林・用材林などとして管理を行いながら、拡大を防止し維持する ・補植し自然の回復力を利用しながら、樹林へ誘導する ・林床の畑耕作により新しい環境をつくり多様性を高める		
	乾生草地	・開放水面(水たまり)や多様な水分条件の湿地環境を保全・復元し多様性を高める ・水田耕作を行い、多様性を高める ・畑耕作による昔の畑の復元、新しい環境としての畑をつくり多様性を高める		
	湿生草地			
B*	集水域を保全するための樹林の保全管理	常緑広葉樹自然林	・自然遷移に委ねることを基本とし、良好な樹林として維持する ・萌芽更新を行いながら、多様性を高める ・間伐等を、行いながら複層林化を図り、多様性を高める	
		湿生落葉樹自然林		
		落葉広葉樹二次林		
		混生二次林		
	集水域を保全するための表土・地形等の保全管理	落葉広葉樹二次林	・傾斜木を間伐する等、複層林化を図り、多様性を高める	
	湧水を保全するための表土・地形等の保全管理	常緑広葉樹自然林		
		湿生落葉樹自然林		
		落葉広葉樹二次林		
	注目種(ホタル・ホトケドジョウ)の生息環境の喪失・減少を防止するための表土・地形等の保全管理	常緑広葉樹自然林	・自然遷移に委ねることを基本とし、良好な樹林として維持する ・萌芽更新を行いながら、多様性を高める(ホタル) ・間伐等を、行いながら複層林化を図り、多様性を高める(ホトケドジョウ) ・ホタルの生活史や行動を理解し、その生息環境を維持する ・ホトケドジョウの生活史や行動を理解し、その生息環境を維持する	
		混生二次林		
林縁生低木-ツル植物群落		・補植し自然の回復力を利用しながら、樹林へ誘導する ・ホタルの生活史や行動を理解し、その生息環境を維持する ・ホトケドジョウの生活史や行動を理解し、その生息環境を維持する ・フクロウの生活史や行動を理解し、その生息環境を維持する		

※A: 手入れをしながら面的に活用可能な区域

B: 手入れをしながら線的な利活用にとどめる区域

保全・活用方針の 区域区分	樹林地・湿地の保全管理の項目	現存植生	樹林地・湿地の保全管理手法メニュー
B※	周辺住宅への被害を防止するための表土・地形等の保全管理	常緑広葉樹自然林	・傾斜木を間伐する等、複層林化を図り、多様性を高める
		湿生落葉樹自然林	
		落葉広葉樹二次林	
		混生二次林	
	急傾斜地の植生の保全管理 (倒木の撤去、必要に応じた表土・地形等の保全管理)	常緑広葉樹自然林	・傾斜木を間伐する等、複層林化を図り、多様性を高める
		湿生落葉樹自然林	
	注目種(ホタル・ホトケドジョウ)の各個体に適した生息環境の保全管理	常緑広葉樹自然林	・自然遷移に委ねることを基本とし、良好な樹林として維持する ・萌芽更新を行いながら、多様性を高める(ホタル) ・間伐等を、行いながら複層林化を図り、多様性を高める(ホトケドジョウ) ・ホタルの生活史や行動を理解し、その生息環境を維持する ・ホトケドジョウの生活史や行動を理解し、その生息環境を維持する
		湿生落葉樹自然林	
		落葉広葉樹二次林	
		混生二次林	
	植林地(針葉樹)	・用材林樹林管理を行いながら、植林を維持する ・広葉樹との混交林化を図り、多様性を高める、自然林への遷移を誘導する ・自然遷移に委ねる	
		林縁生低木-ツル植物群落	・多様な生物相を保全するため、その生育環境を維持する ・ホタルの生活史や行動を理解し、その生息環境を維持する ・ホトケドジョウの生活史や行動を理解し、その生息環境を維持する
	エコロジカルネットワークの形成のための樹林の保全管理	常緑広葉樹自然林	・エコロジカルネットワークに配慮し、自然遷移に委ね、良好な樹林を維持する ・自然遷移に委ねることを基本とし、良好な樹林を維持する
		湿生落葉樹自然林	
落葉広葉樹二次林			
防風林機能を保持するための樹林の保全管理	常緑広葉樹自然林	・防風機能を保持するため、自然遷移に委ね、良好な樹林を維持する	
	湿生落葉樹自然林		
	落葉広葉樹二次林		
	混生二次林		
林縁生低木-ツル植物群落	・自然遷移に委ねることを基本とし、良好な樹林を維持する		
	落葉広葉樹二次林	・自然遷移に委ねることを基本とし、良好な樹林に移行させる ・景観に配慮し、補植し自然の回復力を利用しながら、樹林へ誘導する	
景観を保全するための樹林・林床・草本類等の保全管理	林縁生低木-ツル植物群落	・自然遷移に委ねることを基本とし、良好な樹林を維持する	
	竹林	・林床の広場的な活用を図る	
保全管理を行うためのスペースの確保	林縁生低木-ツル植物群落	・自然遷移に委ねることを基本とし、良好な樹林を維持する	
	竹林	・生産林・用材林などとして管理を行いながら、拡大を防止し維持する	
その他の保全管理	植林地(針葉樹)	・用材林樹林管理を行いながら、植林を維持する ・広葉樹との混交林化を図り、多様性を高める、自然林への遷移を誘導する ・自然遷移に委ねる	
	常緑広葉樹自然林	・自然遷移に委ねることを基本とし、良好な樹林として維持する ・萌芽更新を行いながら、多様性を高める ・間伐等を、行いながら複層林化を図り、多様性を高める	
C※	集水域を保全するための樹林の保全管理	常緑広葉樹自然林	・自然遷移に委ねることを基本とし、良好な樹林として維持する ・萌芽更新を行いながら、多様性を高める ・間伐等を、行いながら複層林化を図り、多様性を高める
	注目種(フクロウ・ホタル)の生息環境の喪失・減少を防止するための表土・地形等の保全管理	湿生落葉樹自然林	・傾斜木を間伐する等、複層林化を図り、多様性を高める
		落葉広葉樹二次林	・フクロウの生活史や行動を理解し、その生息環境を維持する ・ホタルの生活史や行動を理解し、その生息環境を維持する
	周辺住宅への被害を防止するための表土・地形等の保全管理	落葉広葉樹二次林	・傾斜木を間伐する等、複層林化を図り、多様性を高める
		林縁生低木-ツル植物群落	・補植し自然の回復力を利用しながら、樹林へ誘導する
		乾生草地(耕作地)	・傾斜木を間伐する等、複層林化を図り、多様性を高める
	景観を保全するための樹林・林床・草本類等の保全管理	常緑広葉樹自然林	・自然遷移に委ねることを基本とし、良好な樹林へ誘導する
		落葉広葉樹二次林	
	保全管理を行うためのスペースの確保	落葉広葉樹二次林	・林床の広場的な活用を図る
	その他の管理	竹林	・生産林・用材林などとして管理を行いながら、拡大を防止し維持する
		植林地(針葉樹)	・用材林樹林管理を行いながら、植林を維持する ・広葉樹との混交林化を図り、多様性を高める、自然林への遷移を誘導する
		林縁生低木-ツル植物群落	・自然遷移に委ねることを基本とし、良好な樹林へ誘導する
		湿生草地	・ヨシなど水生植物を活用した水質浄化池を設ける
		乾生草地	・開放水面(水たまり)や多様な水分条件の湿地環境を保全し多様性を高める

※B: 手入れをしながら線的な利活用にとどめる区域

C: 最小限の手入れにとどめ遷移を誘導する区域